

Excel作業効率化アドイン 使用説明書

堀江正輝

2021年3月14日

本ツールのインストール方法

- 堀江正輝のホームページ (<http://seilpartners.jp/horie.masaki>) のDOWNLOADSセクションにて、以下のリンクをクリックしてZipをダウンロードしてください。



EXCEL作業効率化アドイン

ドキュメンテーション、図面作成、マクロ・システム関連の作業をする場合に便利に使用している機能をアドイン化したものです。(2021/3/13ツール更新)

- セル操作：複数行の行の高さを現在の高さに対する比率で一括変更する（印刷時の見切れ対応）、大分類～小分類のような列ヘッダに対し、各分類の同一分類名を列方向に結合する、などの便利機能です。
- シェイプ操作：Excelで図面を作成する際に使用するコネクタの歪み調整を想定した機能があります。
- データ生成：選択範囲の重複データを一意のデータとして抽出したり、選択範囲をテーブルと見なして(SQL)INSERT文を生成するなど、データ分析やシステム開発に役立つ機能があります。

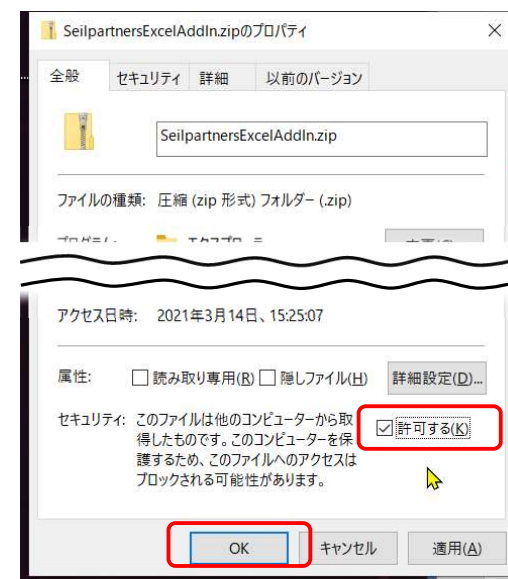
[ツールのダウンロードはこちら](#)・[マニュアルのダウンロードはこちら](#)

- ダウンロードしたZipは解凍する前に、Zipファイルのプロパティを開き、全般タブの最下段にセキュリティの許可欄がある場合は、「許可する」にチェックを入れてOKを押してください。

これをしないと、次のステップでインストールに失敗します。

- Zipを解凍し、解凍フォルダの Setup.exe を実行してください。以上でインストールは完了です。

- お使いのWindowsに搭載されている .NET Framework が、本ツールの必要とする 4.7.2でない場合、ダウンロードを求められますので、その手順に従ってください。



本ツールのアンインストール方法

1. 【アンインストール方法】本ツールを使用を停止し削除したい場合は、スタートメニューの「アプリと機能」を開き、アプリの一覧のうち本ツールを示す「SeilpartnersExcelAddIn」の「アンインストール」を実行します（下図）。
以上でアンインストールは完了します。



本ツールの機能と使用方法 - ①行の高さの調整

左図のように画面ではすべての文字が表示されている場合でも、印刷すると文字が見切れてしまう場合があります。そのため余裕のある行の高さに設定する必要がありますが、それぞれの行は高さが異なるため、一括で設定ができません。これを解決する機能です。

行の高さを指定したい行を選択状態にして、この機能を使用すると、一括で行の高さを%単位で調整できます。

このドキュメントの場合、ざっくり2割くらい行の高さを増やせば1行分程度の余裕ができるので、印刷時に1行はみ出ても、見切れることがなさそう。

本ツールの機能と使用方法 - ②列ヘッダのセル結合

文章で表現が難しい機能ですが、左の表を右にする、という機能です。
対象の表をセルの範囲指定して、本機能を実行してください。

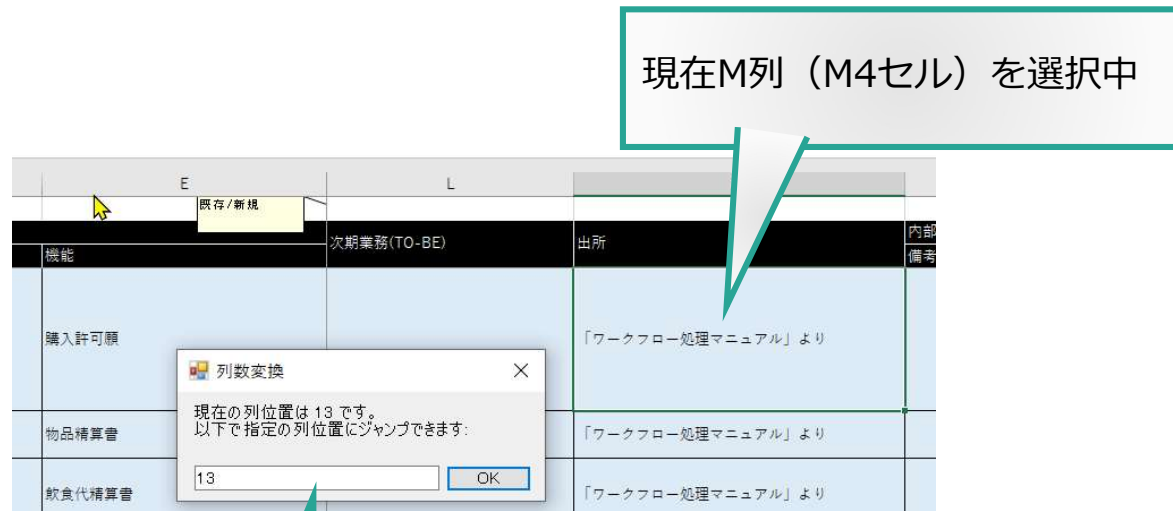
機能	大分類	中分類	小分類	ID	機能
	資産管理	共通機能	会計システム共通機能	資産-0001	ファンクションボタン
				資産-0002	前回呼び出し機能
				資産-0003	会計共通セキュリティとパターンチェックによる入力制限
				資産-0004	特有のデータ属性を保持する項目一覧
			資産管理システム共通機能	資産-0005	改定日管理
				資産-0006	基準日の初期表示
				資産-0007	対象年度の指定
				資産-0008	処理モード

大分類、中分類、小分類の同一分類となる行が結合されてひとつのセルとなっている

機能	大分類	中分類	小分類	ID	機能
	資産管理	共通機能	会計システム共通機能	資産-0001	ファンクションボタン
				資産-0002	前回呼び出し機能
				資産-0003	会計共通セキュリティとパターンチェックによる入力制限
				資産-0004	特有のデータ属性を保持する項目一覧
			資産管理システム共通機能	資産-0005	改定日管理
				資産-0006	基準日の初期表示
				資産-0007	対象年度の指定
				資産-0008	処理モード

本ツールの機能と使用方法 - ③列位置変換

R1C1表示の時にはA1形式での列番号取得(と指定列番号へのジャンプ)、A1形式の際はその逆の動作をします。
マクロ開発時の利便性のため作成したものです。



マクロ開発時など、列を番号で知りたい場合に手軽に使用できる。
また、テキストボックスに列番号を入れると該当列にジャンプするので、列番号に対応する列名を知りたい場合に使用できる

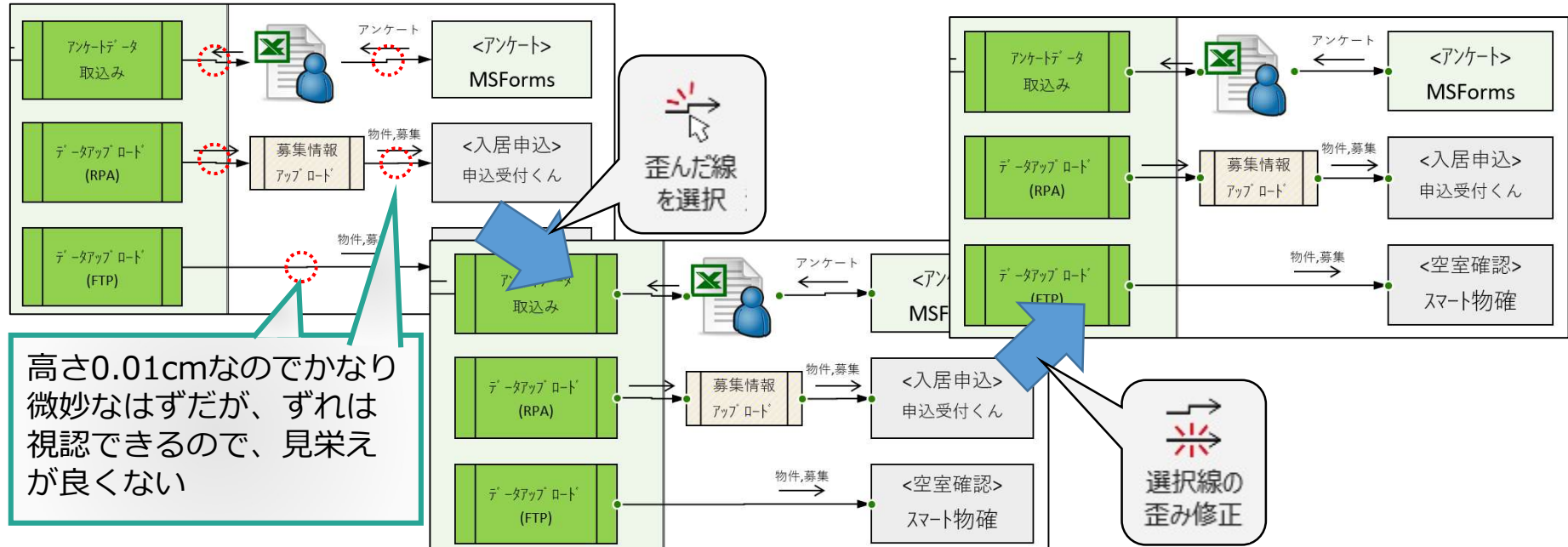
本ツールの機能と使用方法 - ④歪んだ線を選択、⑤選択線の歪み修正

この2つの機能は主に連携して使用することを想定しています(単独でも使用できます)。

下図左のように、図形同士をコネクタで接着した場合、ほぼ同じサイズの同じ高さの図形同士にも関わらず、コネクタが微妙に歪む(赤○部分)ことがあります(というか多いです)。④の機能は、シート上にあるこのように「少し歪んだ※」コネクタを発見して、それを選択状態にします。それが下図真ん中の状態です。

※「少し歪んだ」のプログラムの認識方法は、図形の「高さ」が「0.05cm」以下のものです。

⑤の機能は、選択している図形の「高さ」を「0cm」にします。④で、少し歪んだコネクタが選択状態になっていると、続けてこの機能を実行することで、すべてきれいな直線にすることができます。



本ツールの機能と使用方法 - ⑥ユニーク値抽出

列を選択してこの機能を使用すると、行単位で一意のデータのみ取り出すことができます。

下図の例は、株価データには市場のデータが存在していますが、市場のユニークな値を得たい場合に本機能を使う例です。市場のデータをすべて選択状態にして本機能を実行すると、クリップボードにユニーク化された値が入りますので、別の場所に張り付けてご利用ください。

1	コード・名称	市場	始値	高値	安
2	1301 (株)極洋	東証1部	3080	3105	3070
3	1305 ダイワ 上場投信-トビックス	東証ETF	2032	2053	2023
4	1306 (NEXT FUNDS)TOPIX連動型上場投信	東証ETF	2008	2029	1999
5	1308 上場インデックスファンドTOPIX	東証ETF	1984	2010	1980
6	1309 (NEXT FUNDS)ChinaAMC・中国株式・上証50	東証ETF	46350	46350	45700
7	1311 (NEXT FUNDS)TOPIX Core30連動型上場投信	東証ETF	918	926	895
8	1312 小型コア・インデックス連動型上場投信	東証ETF	21940	22160	21880
9	1313 サムスンKODEX200上場指数投資信託	東証ETF	3955	4135	3955
10	1319 (NEXT FUNDS)日経300株価指数連動型上場投信	東証ETF	371	375	369
11	1320 ダイワ 上場投信-日経225	東証ETF	30200	30650	30050
12	1321 (NEXT FUNDS)日経225連動型上場投信	東証ETF	30250	30700	30100
13	1322 上場インデックス中国A株 E FUND CSI300	東証ETF	8480	8530	8310
14	1323 (NEXT FUNDS)南アフリカ株式指数上場投信	東証ETF	406	412	405
15	1324 (NEXT FUNDS)ロシア株式指数上場投信	東証ETF	145	148	145

マザーズ
札幌ア
東証1部
東証2部
東証ETF
東証JQG
東証JQS
名古屋セ
名証2部

値の種類は標準機能のオートフィルタを使用すれば把握できるが、データとして得たい場合に本機能を利用すると便利

本ツールの機能と使用方法 - ⑦INSERT文生成

SQLのINSERT文を生成します。1行目が列名、2行目以降がデータとなる選択範囲からSQL文を生成します。
詳しい使用方法は、本機能実行時に表示されるダイアログボックスの説明書きを読んでください。

	A	B	C	D	E
1	id	name	address	point	
2	M0001	赤木翔太	東京都	200	
3	M0002	堀江	東京	95	
4	M0003	谷岡正巳	奈良県	1700	
5					
6					
7					

表の範囲を選択して本機能を実行すると、
クリップボードにSQL INSERT文が生成
されます。
文字と数値も自動判定します。

```
INSERT INTO [Memb]([id],[name],[address],[point]) VALUES('M0001','赤木翔太','東京都',200);  
INSERT INTO [Memb]([id],[name],[address],[point]) VALUES('M0002','堀江','東京',95);  
INSERT INTO [Memb]([id],[name],[address],[point]) VALUES('M0003','谷岡正巳','奈良県',1700);
```

【クリップボードの内容】